

ビヨンドトゥモロー 夏季グローバル研修 アジアサマープログラム (韓国)
～民間外交のための日韓の若者パートナーシップ～ - 企画案 -

2016年8月
一般財団法人教育支援グローバル基金

1. 趣旨

ビヨンドトゥモローの海外事業をより意義深いものに発展させるべく、アジア太平洋における若者による民間外交のプラットフォーム構築をめざす。特に、両国における社会格差による機会不平等が問題として認識される昨今において、通常、グローバルな視野から活動するような機会へのアクセスが限られていると考えられる学生たちが、重要なパートナーである国の同世代の若者と寝食を共にし、大きな気づきを得るといった機会を得ることにより、将来、他国の人々への共感を持って活動できる人材が育成されることをねらう。

その第一歩として、2016年8月に、日韓での対話事業を開催する。日本全国から選抜された高校生・大学生11名が2016年夏に韓国を訪問し、現地の学生と共に、様々な課題について協議する。二国間の問題を議論するにとどまらず、両国にどのような社会課題が存在するかを抽出した上で、課題解決のために、いかに両国の若者が政治や政策立案に参画し、課題の解決に寄与できるかを討議する場とする。

また、中長期的には、アジア太平洋の人材育成という視点から、日中韓及び米国の参画を視野に、若者に限らず、多様なステークホルダーが集うフォーラムとしての場の構築をねらう。

2. これまでの夏季グローバル研修の経緯

これまでに、ビヨンドトゥモローでは、東北被災地の学生たちを対象に米国・フランス・ドイツで夏季グローバル研修を開催してきた。その実績をもとに、2016年夏には、参加学生の対象を日本全国に広げ、米国およびアジアにおける人材育成を試みる計画である。

2012年	米国サマープログラム (ニューオーリンズ・ボストン・ニューヨーク・ワシントンDC)
2013年	米国サマープログラム (サンフランシスコ・ニューヨーク) 欧州サマープログラム (フランス・ドイツ)
2014年	米国サマープログラム (ボストン・ニューヨーク) 欧州サマープログラム (フランス・ドイツ) アジアサマープログラム (フィリピン)
2015年	米国サマープログラム (ボストン・ニューヨーク) 【村瀬二郎記念奨学事業】 アジアサマープログラム (フィリピン)

3. 目的

i. 両国に存在する社会問題の検討と解決にむけた協議

日韓両国から選抜された高校生・大学生が、日韓それぞれの国に存在する社会課題について議論し、解決のためにいかに両者が協働できるかを考える。少子高齢化、社会格差、地方衰退、若者の雇用、など、両国が抱える社会課題は共通するものが多く、なぜそのような問題が起きているのかという社会背景について議論した上で、課題解決のために、自分たちに具体的に何ができるかを提言にまとめる。単なる社会課題の分析・評論に終わることなく、自らに何ができるかを考え、その検討の上で、日韓両国の若者がいかに協働できるかを思考することにより、より建設的・創造的な二国間関係の構築をねらう。

ii. 広範な社会経済的背景を代表する学生たちによる日韓交流の実践

日本と韓国の両国における社会格差による機会不平等が問題として認識される昨今において、通常、グローバルな視野から活動するような機会へのアクセスが限られていると考えられる学生たちが、重要なパートナーである隣国の同世代の若者と寝食を共にし、大きな気づきを得るという機会を得ることにより、将来、他国の人々への共感を持って活動できる人材が育成されることをねらう。したがって、本プログラムに、多様な社会経済的背景を持つ学生たちが参加することに重きを置いており、都市部に居住し、経済的に恵まれ、海外に視野をむける機会を得やすい学生だけではなく、遠隔地に居住し、経済的に厳しい状況にあり、通常このようなグローバルな視野を養う活動に参加する機会へのアクセスが限られているながらも、機会を得ることができれば社会に尽力する資質を持つと考えられる学生たちを日韓両国から選抜し、そのような学生たちが寝食を共にすることにより、様々な社会的階層の体験や意見が反映される事業構築を目指す。

iii. マルチステークホルダーによる民間外交のプラットフォームの構築

日本・韓国という、時に難しい外交課題を抱える二国の未来を担う若者が、相互に信頼関係を築き、建設的な議論を深めていくためには、様々なアクターの協力が不可欠である。本事業を1回の学生交流に終わらせることなく、日韓両国における広いステークホルダーが集い、人材育成にコミットする場とすべく、政治・行政・ビジネス・アカデミア・メディア・市民団体など、様々な領域からのリーダーを本事業に巻き込む計画である。そして、本事業に参加する学生たちだけでなく、本事業に関わる多くの人々が、日韓関係が難しい局面に立たされた時に、幅広い分野の人々と連携し、両国が建設的な未来を築くべく尽力する役割を果たすことを期待している。

4. 対象者

- ・ビヨンドトゥモロージャパン未来フェローズプログラムに参加する日本側学生 11名（大学生 8名：高校生 3名）。参加者は、日本全国の各地出身で、様々な事情により、通常、このような機会を得ることが難しいと考えられる者が中心となるが、東北出身の学生が約半数含まれる（一般公募により、約 10 倍の倍率により選考）
- ・韓国各地出身の高校生・大学生 8名（一般公募により、約 3 倍の倍率により選考）

5. 期間

2016年8月17日（水）～24日（水）

※日本側参加学生は、8月16日（火）に集合し、一泊二日の事前研修に参加。

6. 場所

韓国：ソウル・大田・釜山

7. 協力団体

助成	独立行政法人国際交流基金
後援	在大韓民国日本国大使館
	在大韓民国米国大使館
	在釜山日本国総領事館
	在釜山米国総領事館
	公益財団法人日韓文化交流基金
協力	釜山韓日交流センター

8. プログラム案

【ハイレベル会合】 政治・ビジネス・メディア・文化芸術・シビルソサエティなど幅広い分野で活動する韓国のリーダーを訪問し、韓国における課題と挑戦について理解を深める。特に、韓国を基軸に、グローバルな視野を持ってインプットを提供できる団体や個人を対象としたい。

【社会課題の検討】 韓国における様々な社会課題の実状を理解すべく、課題が存在する地域や、その解決のための活動を行っている現場を訪問し、実状のヒアリングや交流活動を行う。そして、日韓の社会課題の共通点及び差異について検証し、議論する。

【対話】 日韓の学生たちがそれまでの人生や今後の自分の人生について語り合い、人間対人間としての関係を構築する場を提供する。

【ディスカッション・提言作成】 プログラムを通じての学びをまとめ、今後、課題解決のために、いかに日韓両国の若者が政治や政策立案に参画していくべきかを考え、提言にまとめる。まとめた提言を、両国の政府に提出する方法を模索したい。

(日程案)

	都市	内容
8月16日(火)	東京	集合・オリエンテーション・壮行セッション
8月17日(水)	東京→ソウル	東京→ソウル移動 日韓学生集合・オリエンテーション ウエルカムディナー
8月18日(木)	ソウル	日中韓三国協力事務局(TCS)ブリーフィングセッション 日本大使館表敬訪問 セウオル号沈没事故遺族との交流
8月19日(金)	ソウル	米国大使館でのGlobal Asia Leadership Forumとのディスカッション 外国人移民・多文化家族についてのブリーフィング
8月20日(土)	ソウル	板門店・南北境界線視察 レセプション・提言作成中間発表会
8月21日(日)	ソウル→大田→釜山	ソウル→大田移動 大田：貧困地域視察、住民との意見交換 大田→釜山移動
8月22日(月)	釜山	脱北者学校訪問 釜山観光開発についてのブリーフィング ビーチ・アクティビティ
8月23日(火)	釜山	最終提言作成 閉会式・最終提言発表会 フェアウエル・ディナー
8月24日(水)	釜山→東京	解散・帰国

9. 一般財団法人教育支援グローバル基金 | ビヨンドトゥモローについて

一般財団法人教育支援グローバル基金は、東日本大震災を機に設立された財団法人として、共感力ある次世代のグローバル・シティズン（地球市民）の輩出をめざす人材育成事業「ビヨンドトゥモロー」の運営を行っています。東日本大震災直後から、「逆境は優れたリーダーを創る」を理念に、次世代を担う若者たちが集い、深い思考と真摯な内省を基軸に、他者との対話を試みるというアプローチを通じ、よ

り広い視点、深い共感力をもって社会のことを考えることのできる人材輩出にむけて様々な活動を行ってきました。設立以来、東北地方の高校生・大学生を対象に活動を展開してきましたが、2015 年秋より、対象領域を全国に展開しています。 ウェブサイト：<http://www.beyond-tomorrow.org/>

理事 橋本 大二郎（理事長）
小林 正忠
佐藤 輝英
坪内 南
本庄 竜介
村瀬 悟

評議員 木山 啓子
宮城 治男
山崎 直子

アドバイザー 阿川 尚之
竹中 平蔵

監事 江崎 滋恒

10. アジアサマープログラム（韓国）2016 参加者一覧

【日本側参加者（11名）】



澤田 万尋（学生スタッフ）

早稲田大学基幹理工学部（宮城県仙台第二高等学校卒業）

高校生の時からビヨンドトゥモローに参加し、そこで出会う仲間は学校での友人とはどこか違う存在で、多くを共有できる刺激的な存在であったと感じている。ビヨンドトゥモローの海外研修で欧州を訪問し、世界中から知力と技術を集結させ、開発に挑む航空業界に大きな魅力を感じたことから、将来は、航空業界で機体開発に携わりたいと考えるようになった。高校生の時、自分を支え、辛い時にはグッと持ち上げてくれる存在だった先輩フェローズの姿に憧れ、自分も後輩を支える存在になりたいと、フェローズプログラムに参加。アジアサマープログラムには、学生インターン・スタッフとして参加予定。



一法師 光希

北海道札幌東高等学校

高校2年で初めてビヨンドトゥモローの活動に参加し、日常では知ることのできない大切なことを学ぶことができる場であると感じ、受験生として勉強が忙しくなることが想定される中、悔いのない日々を送りたいと、フェローズプログラムに応募を決意した。ビヨンドトゥモローの活動では、海外研修に参加し、偏見を持つことなく国境や文化を超えて多くの人と親しむことができる人間になりたいと考えている。将来は、子供に関わる仕事に就き、子供たちが広い視野を持って物事考えられる人間になる手助けをすること。



伊藤 豪祐

東北大学工学部（仙台青陵中等教育学校卒業）

ストリートチルドレンだったフィリピン人の青年との出会いに衝撃を受け、途上国にある現実を知らなかった自分に憤りを感じ、ストリートチルドレンの職業訓練所を作りたいと考えるようになった。ビヨンドトゥモローに参加することで、視野を日本の身におくのではなく、世界の中の日本、世界の中の自分という視点を養いたいと考えている。大学で医工学の分野で超音波がん治療を学び、将来は、発展途上国の発展に貢献することが夢。



稲村 ほのか 宮城学院高等学校

東日本大震災で家を失う。震災後、ボリビアに1年間留学し、貧富の差を目の当たりにすると共に、教育を受けることができなければ、貧困の中にある人たちが立ち上がることは難しいことを知った。帰国後、ビヨンドトゥモローで国内外の活動に参加することで、開発支援や教育格差について学ぶ機会を得たり、困難を乗り越える強さや考える力をみつけたり、かけがえのない大切な経験を通して成長してきた。今回のフェローズプログラムに参加し、新しい出会いを得て、語り合い、理解しあい、視野を広げていきたいと考えている。



佐藤 舞 名古屋市立大学看護学部（岩手県立大船渡高等学校卒業）

東日本大震災で、陸前高田市の自宅を失った。高校2年生の時に初めてビヨンドトゥモローに参加し、初めて自分の震災体験を語り、周囲の人が真剣に自分の話を聴いてくれた時、自分は誰かに話をきいてほしかったということに気がついた。その貴重な体験から、またビヨンドトゥモローに参加し、視野を広げ、考えを深めていきたいと考え、フェローズプログラムに応募した。将来は、看護師になり、陸前高田のような過疎地域で十分な医療を受けられるように尽力し、活気のある高田を作るための力になりたい。



ステポシナ エカテリーナ 福岡県立香椎高等学校

9歳でウクライナから日本に移住し、異なる生活環境になじむことができず苦労した経験から、二つの故郷を持つ者として、将来、外国人をサポートする事業を立ち上げる起業家になることが夢。高校1年で初めてビヨンドトゥモローの活動に参加し、視野や世界観が広がり、自分に自信が持てるようになった。この成長を止めたくないと、更なる挑戦を目指して、フェローズプログラムに応募を決めた。現在、生徒会副会長として活躍する傍ら、国公立大学の経済学部への進学を目指して、経済の勉強に勤しんでいる。



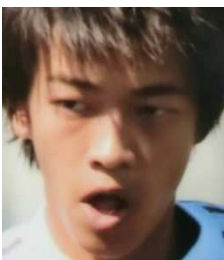
高橋 奈々美 国際基督教大学（St. George's School in Switzerland 卒業）

東日本大震災直後にビヨンドトゥモローと出会って以来、ビヨンドトゥモローは、迷い掛けそうになる度に励まされる場所であったと感じている。震災後、フランス、スイスに留学し、世界各国から集まる仲間と交流する中で、グローバルな感性を身に付け、英語・フランス語を磨いた。将来は、貧困や災害で人間らしい生活を送ることができずにいる人々が、幸せにむかって邁進するためのサポートをできる人になることが夢。今回のフェローズプログラムでは、悩んだり困ったりしている仲間の力になりたいと考えている。



西岡 大穂 鳥取大学農学部（京都府立桂高等学校卒業）

自然が好きだからという理由で農業を学び始めたが、塩類集積などの問題により農業が難しい地域があり、貧困に苦しむ人々が世界にはいることを知り、世界の農業について学び、世界の人々を巻き込んだ農業プロジェクトに携わりたいと考えている。高校時代、環境という視点から農業について考える研究活動に取り組み、全国大会にも出場した。将来は、常に、自分がこの瞬間に何をすべきか、自問自答を繰り返しながら新しい挑戦を続ける大人となり、人を幸せにできる農業の実現に貢献したい。



福田 栄治朗 関西学院大学総合政策学部（桃山学院高等学校卒業）

貧困と教育格差の現実の中で育ったが、神戸のサッカーチームでプレーを続け、小学生でサッカーW杯ドイツ大会の現地派遣に選出され、高校時代にカナダでも日本人として現地のクラブチームを率いてアメリカ遠征に臨んだ経験を持つ。大学進学のための目的は、安全保障や環境政策を学び、日本とアジアの未来に貢献すること。次世代を良いものにすべく、自分が、自分の役割を考えて働けるようになることが、ひいては格差社会を良い方向へ変えていくことにもつながると考えている。



松藤 江巳吏 高知大学人文社会科学部（高知市立高知商業高等学校卒業）

高校生活を通し、ラオスに学校を贈るというプロジェクトに参加し、現地訪問の際に、ビエンチャン県庁で高知の特産品である芋けんぴや生姜飴をラオスで製造することを提案するなど、ラオスと高知をつなぐ活動に取り組んできた。それをきっかけに、世界と日本の懸け橋となる仕事に就きたいと考えるようになった。将来の夢は、日本語教師の資格や英語の教員免許を取得して教員になること、そして、高知の良さを県外や国外に広めるようなビジネスに携わること。



山崎 成歩 聖心女子大学文学部（岩手県立盛岡第四高等学校卒業）

東日本大震災で祖父母を亡くす。その経験から、亡くなった人たちの人生の分まで悔いなく生き、生きているからこそできることをしなくてはならないと考えるようになった。人生を一生懸命生きたと思えるように、失敗することを恐れることなく、未知のチャンスに挑戦して色々なことを知りたいと思う。将来は、国際金融に携わり、先進国だけでなく発展途上国に関連する仕事をしたい。そして、可能性を秘めている人々の夢や希望を現実に近づける手助けができる大人になりたいと考えている。

【韓国側参加者（8名）】



Go-eun Cha 차고은
Dukmoon 女子高等学校

故郷である釜山では、お祭りが多く開催され、観光客が多く訪れる姿があり、町の活気ある雰囲気やエネルギーを誇りに思っている。人と交流することが好きなので、釜山の福祉センターでのボランティアを通じて、高齢者と共に活動している。子どもが好きなので、将来は教師になることが夢。



Min-tak Jean 진민탁
ソウル国立大学校

近年、都市化を進めるために再開発政策がとられ、多くの市民が居住地からの退去を余儀なくさせられた光明市の出身。高校生だった時に父親が病に倒れたため、家族と離れて暮らした経験を持つ。新しい環境に単身で馴染むのは大変だったが、その経験が自分自身を強い人間にしてくれたと考えている。将来は、教育政策の領域で働き、韓国における教育が、人々にとって楽しい体験となるようにしたいと考えている。



Ye-eun Jung 정예은
高陽外国語高等学校

板門店のある軍事境界線（38度線）を隔てて北朝鮮と接する最前線である坡州市出身。中学校の時、学生名誉警察官の役を担い、その経験から、人生について重要な教訓や、判断力や洞察力を得ることができたと感じている。将来は、外交官となり、日韓の間に存在する問題を解決することに貢献したい。



Hyoeng-tae Kim 김형태
明知大学校

幼少時に韓国が経済危機に見舞われ、父親の事業が破たんした。この出来事により大きな苦難が生じたが、その困難が機会を創り、自分をより成熟した人間にしてくれたと考えている。現在、日本語を勉強しており、将来は、文化交流活動に携われる仕事をしたいと考えている。



Min-su Kim 김민수
高麗大学校

高校時代を中国で送り、旅することや新しいことを発券する楽しみを知った。北東アジアの国際関係に関心があり、特に、韓国が今後、日本・中国といかに良好な関係を構築・維持できるかに興味を持っている。将来は外交官となり、アジア地域に存在する様々な課題の解決に取り組みたい。



Da-yeon Lee 이다연
慶尚大学校

幼少時、同級生とうまくやれず悩んだ経験があるが、その経験があつてこそ、他者を知り、障壁を乗り越えることを学ぶことができたと思う。自分自身が、困難な状況にある時に頼ることのできる人を必要とした経験から、将来は、苦しい状況にある人をサポートできる教師になり、励ましを与えられる人になりたい。



Ye-seul Lee 이예슬
漢陽大学校

百済の古都である公州市の出身。日本人の学生と共に、百済の歴史について考えることを楽しみにしている。将来は、教師となり、日本語を教えるだけでなく、生徒が日韓関係に意味ある貢献をできるように手助けをしたいと考えている。ビヨンドトゥモロー夏季グローバル研修に参加することで、日本からの参加学生と多くを共有し、将来、彼女が教師になった時、生徒たちにその経験を伝えていきたいと思っている。



Hyung-suk Woo 우형석
成均館大学校

高校生の時に、家庭が経済的に困難な状況になり、狭いアパートへの転居を余儀なくされた。大学進学が危ぶまれる中、親戚の援助があり、進学することができた。将来は、涉外弁護士となり、また、一方で、困っている人を助けることもできる弁護士になりたい。

以上